



回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	医薬品の標的タンパク質の細胞生物学的性質	代表的な医薬品標的タンパク質の細胞内局在・輸送・分解の経路について概説する。(黒川)	予習:タンパク質の細胞内輸送について知識を確認しておく。 復習:配布プリントを復習する。
2	医薬品の標的タンパク質の構造と機能との相関	代表的な医薬品標的タンパク質の機能発現に重要なドメインの立体構造と機能との相関について概説する(黒川)	予習:タンパク質の構造と機能について知識を確認しておく。 復習:配布プリントを復習する。
3	医薬品の標的タンパク質の活性化剤・阻害剤の作用機構	代表的な医薬品標的タンパク質の活性化剤・阻害剤について概説する。(黒川)	予習:タンパク質の活性化剤・阻害剤の知識を確認しておく。 復習:配布プリントを復習する。
4	タンパク質の結晶化（1）	巨大タンパク質・膜タンパク質の発現・精製・結晶化のストラテジーを概説する。(藤井)	予習:巨大タンパク質・膜タンパク質の発現・精製・結晶化について事前に調べておくこと。 復習:配布プリントを復習する
5	タンパク質の結晶化（2）	微小重力下での結晶生成について概説する。(藤井)	予習:微小重力下での結晶生成について事前に調べておくこと。 復習:配布プリントを復習する
6	医薬品の標的タンパク質の高感度かつ高選択的な検出法	医薬品の標的タンパク質の特定及び発現量の変化測定する方法について、質量分析法に基づく手法を中心に概説する。(大庭)	予習:質量分析について、学部で使用した教科書等で確認しておくこと。 復習:配布プリントを復習する。
7	活性化剤及び阻害剤の高感度かつ高選択的な検出法	標的タンパク質に対して作用する化合物の探索のための分光学的手法に基づくハイスループットスクリーニング法を中心に概説する。(大庭)	予習:蛍光分析について、学部で使用した教科書等で確認しておくこと。 復習:配布プリントを復習する。
8	医薬品の標的細胞内情報伝達タンパク質の構造と機能との相関	細胞内情報伝達経路を遮断する薬物とその標的タンパク質の構造と機能について概説する。(藤田・太田一)	予習:細胞内情報伝達経路について知識を確認しておく。 復習:配布プリントを復習する。
9	医薬品の標的膜タンパク質が関与する疾病と、その治療法の開発	医薬品標的タンパク質の中でも重要な受容体・トランスポーターなどの膜タンパク質の機能およびその異常による疾患と治療法について概説する。(藤田・太田一)	予習:受容体・トランスポーターなどの膜タンパク質の機能について知識を確認しておく。 復習:配布プリントを復習する。
10	磁気共鳴を用いた創薬標的タンパク質の機能検出法	創薬標的タンパク質の機能計測を目的とした、種々の磁気共鳴手法について解説を行う。(市川)	予習:磁気共鳴法について知識を確認しておく。 復習:配布プリントを復習する。
11	タンパク質の磁気共鳴法による機能計測	磁気共鳴手法を用いた、タンパク質機能の計測、変化例について解説を行う。(市川)	予習:膜タンパク質の機能について知識を確認しておく。 復習:指定論文を読んでおくこと。
12	MRI/NMRを用いた疾患における標的タンパク質機能変化の評価	がんなどにおける、MRI/NMRによる膜たんぱく質の機能異常計測について解説を行う。(榎本)	予習:疾患におけるたんぱく質機能変化について知識を確認しておく。 復習:配布プリントを復習する。
13	医薬品の標的タンパク質とその活性化剤・阻害剤の構造化学的相互作用	低分子量の阻害剤および活性化剤の標的タンパク質に対する分子認識機構について概説する。(山口泰)	予習:疎水性相互作用、水素結合等について確認しておく。 復習:配布資料の整理と復習。
14	化合物ライブラリーを用いた活性化剤・阻害剤同定のストラテジー	化合物ライブラリーの構築法について概説する。また、スクリーニング法についても言及する。(山口泰)	予習:有機化学の教科書でペプチド合成について確認しておく。 復習:配布資料の整理と復習。
15	医薬品開発の最先端・動向	現在と過去の医薬品開発を例により、低分子量薬品の研究開発について概説する。(山口泰)	予習:医薬品開発の基礎についてあらかじめ確認しておく。 復習:配布資料の整理と復習。